第76回信州上肢外科研究会

「上肢外科に役立つ形成外科の知識と技術」

埼玉慈恵病院　埼玉手外科マイクロサージャリー研究所所長

福本恵三



上肢外科（手外科）は整形外科と形成外科の双方の知識と技術を要する分野ですが、残念ながら日本では形成外科医の割合はおよそ10％となっています。形成外科とは先天的あるいは後天的に欠損・変形した身体部分を修復・再建し、外貌と機能の回復を図る外科とされています。外貌とあるように、整容は形成外科医にとって重要な関心事ですが、これは手という人目につきやすい器官を扱う先生方にはにぜひ配慮していただきたい事であります。創傷治癒は形成外科の主要なテーマですが、近年の進歩には目を見張るものがあります。適切な創傷管理法、創傷被覆材、陰圧閉鎖療法などを用いることで多くの創傷を保存的に治療することが可能となりました。さらには形成外科の得意分野である皮弁手術をその適応と選択を理解し必要な技量を持って行えば、より機能的・整容的な再建が得られます。

本日のお話が上肢外科を扱う先生方のお役に立てば幸いです。